愛知教育大学附属高等学校研究紀要第 51 号
pp.81～88（March, 2024）

インターネット利用環境実態調査 2023

－1 人 1 台端末活用の考察－

生徒指導部　　堀田　景子

本校では、昨年度と本年度の入学生から 1 人 1 台端末として個人用 iPad を購入し、様々な学習活動に利用している。来年度は全校で 1 人 1 台端末の体制となり、生徒の情報機器の利用実態やその活用状況、インターネットの利用環境を調査し、指導や助言等に生かす必要性を感じ、本年度も内閣府が実施している「青少年のインターネット利用環境実態調査」を基に調査を行った。また、1、2 年の生徒には学校指定の個人端末としての iPad の利用についての設問を設けた。

インターネットの接続状況および接続機器についても、内閣府の調査と同様にほとんどの生徒がスマートフォンを利用している。また、本校の傾向として昨年度に比べてタブレット端末の利用が大きく増加した。利用時間については、スマートフォンについて、3 時間から 4 時間の利用時間が昨年に比べ大きく増加しており、より一層スマートフォンの利用の長時間化が見られた。利用内容については、タブレット端末で勉強すると回答した割合が大きく増え、本年度の 1、2 年生が個人用 iPad を家庭学習にも利用していることがうかがえた。

次に 1、2 年生を対象とした iPad の授業の利用において、良い点だと感じているものについては、ほとんどの項目で昨年度より高い値となり、授業での活用をよりよく受け止めていると言える。特に、授業での効率や内容に関する設問および家庭学習に利用できるが大きく伸びている。また、個人用 iPad が授業でどのように活用されるとよいか、さらに、家庭学習でどのように役立てているか、を自由記述で調査した。授業については、「教科書やノートの代わりとして利用」を含む回答が多く、3 割を超える生徒がデジタル教科書を希望していた。一方、家庭学習で iPad をどのように役立てているかについては、「分からない英単語や古語などを調べる」と「予習・復習、そのために解説動画を見る」を関連させて家庭学習をすると記述した生徒が 6 割を超えた。これらから、端末での学習を授業と家庭学習の両方で連携させながら効率よく学習に取り組みたいという姿勢がうかがえた。今後も 1 人 1 台端末の利点を生かすためには、授業での学びと家庭学習をいかにスムーズにつなげていくかが課題となると考えられる。

＜キーワード＞　インターネット利用環境実態調査　情報機器　スマートフォン　iPad　1 人 1 台端末　授業　家庭学習

1. はじめに

本校では、昨年度と本年度の入学生から 1 人 1 台端末として個人用 iPad を購入し、様々な学習活動に利用している。一方で、現在 3 年生は BYOD を学習活動に利用しており、iPad を授業や学習に活用する学年と、スマートフォン等の個人端末を必要な時に利用する学年が混在している。また、学校と生徒、家庭との連絡や情報の配信、共有に使用するプラットフォームを現在の 1、2 年生では Google、3

年生では Classi として利用している。ICT 機器の利用や活用が進む中で、BYOD から 1 人 1 台端末になるまで、本校では継続して情報機器の利用実態についての調査を行ってきた。来年度には全校生徒が 1 人 1 台 iPad を所持していくにあたり、生徒の情報機器の利用実態やその活用状況、インターネットの利用環境を調査し、指導や助言等に生かす必要性を感じている。よって、本年度も内閣府が実施している「青少年のインターネット利用環境実態調査」を基に調査を行った。

2. 調査概要

（1）調査対象

対象者は第 1 学年 118 名、第 2 学年 119 名、第 3 学年 116 名の計 353 名である。

（2）調査方法

時期は 12 月末とし、回答には約 1 週間の期限をもうけ、Google フォームで行った。

（3）調査項目

内閣府が実施している「青少年のインターネット利用環境実態調査」[1] を基に質問項目を作成し、本校独自の質問項目も追加して実施した。本校独自の質問は、1、2 年の生徒を対象に学校指定の個人端末としての iPad（以下個人用 iPad）の利用について、個別の質問項目を設けた。

回答は選択式および記述式とし、Google フォームで行った。また、選択式の回答については複数選択形式を原則とし、一部単一選択方式とした。

3. インターネット利用環境実態調査の主な結果

（1）回答率

第 1 学年 117 名、第 2 学年 117 名、第 3 学年 116 名の計 350 名が回答した。回答率は 99.2%であった。男女比は男子 38.3%、女子 60.3%であった。

（2）インターネットの接続および利用率

インターネットは 100%の生徒が利用している。インターネットを利用している機器は、自分専用のスマートフォンの利用が 99.1%で最も多く、続いてインターネット接続テレビが 58.6%、ゲーム機が 57.1%、自分専用のタブレットが 55.7%であった。

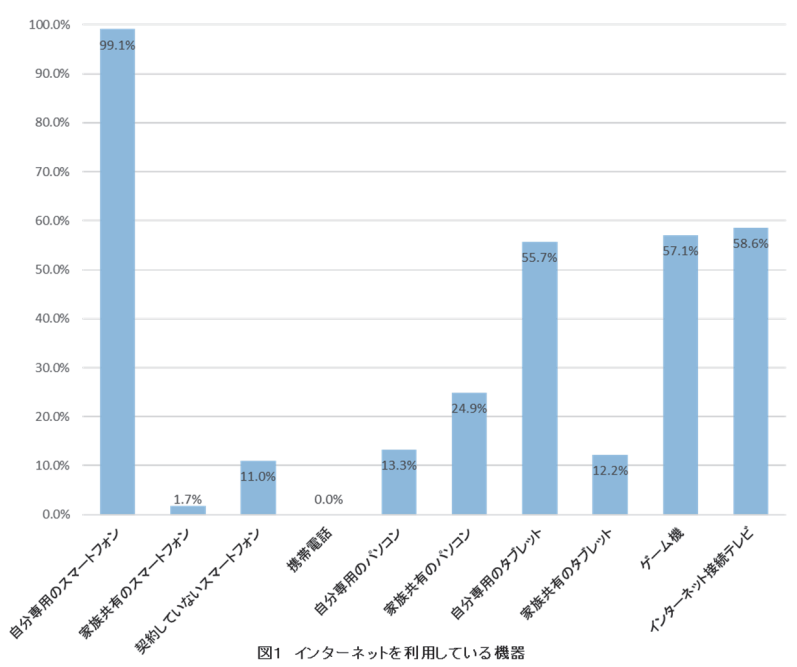

図1 インターネットを利用している機器

（3）インターネット接続機器の利用内容

スマートフォンの利用内容は、音楽を聴くが 93.4%、投稿やメッセージを交換するが 92.2%であった。勉強をするは 68.0%であった。パソコンを利用している生徒は、自分専用および家族と共有を合わせて 38.2%であった。パソコンを利用している生徒の利用内容は、撮影や制作、記録をするが 34.2%、勉強をするが 33.5%であった。タブレット端末を利用している生

徒は、自分専用では 55.7%、家族と共有も含めると 67.9%であった。その利用内容は、勉強をするが 72.8%、音楽を聴くが 28.0%であった。これらの結果は各情報機器ともに利用していると回答したものに対する割合である。

（4）各機器の平日の平均利用時間

スマートフォンの利用時間は、2 時間から 3 時間が 30.3%で最も多く、3 時間から 4 時間が 24.6%、1 時間から 2 時間が 20.3%であった。5 時間以上は 12.0%であった。パソコンは利用している 172 名のうち、1 時間未満が 56.4%で最も多く、次いで 1 時間から 2 時間が 11.6%、2 時間から 3 時間が 9.9%であった。タブレットは利用している 238 名のうち、1 時間未満が 40.3%で最も多く、次いで 1 時間から 2 時間が 30.2%、2 時間から 3 時間が 18.1%であった。ゲーム機は利用している 198 名のうち、1 時間未満が 54.5%と最も多く、1 時間から 2 時間が 28.3%、2 時間から 3 時間が 12.1%であった。インターネット接続テレビは利用している 226 名のうち、1 時間未満が 56.2%と最も多く、1 時間から 2 時間が 42.5%、2 時間から 3 時間が 10.6%であった。

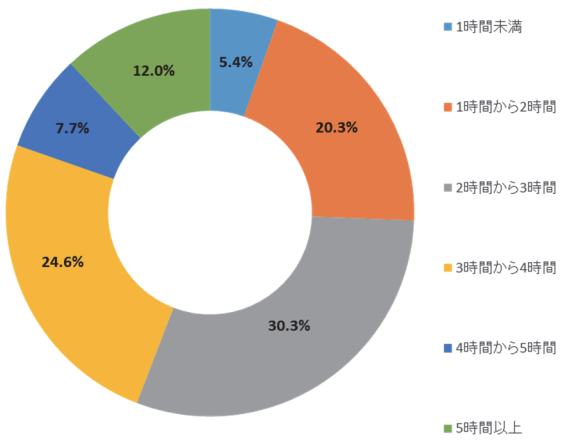

図2 スマートフォンの平日利用時間

また、これらの機器を利用して、勉強や学習にどれくらいの時間を利用しているかについては、1 時間未満が 53.7%、1 時間から 2 時間が 33.8%であった。一方、趣味や娯楽については、1 時間から 2 時間が 30.3%で最も多く、2 時間から 3 時間が 29.4%、1 時間未満が 14.6%であった。コミュニケーションに利用している時間は、1 時間未満が 50.0%で最も多く、1 時間から 2 時間が 31.1%であった。

（5）情報モラルやセキュリティの意識について

悪口や嫌がらせのメッセージやメールを送られたり書き込みをされたことがあるのは 6.3%、同様に書き込みをしたことがあるのは 1.7%であった。また、他人が見ることができる SNS 等で自分の情報（名前や写真、メールアドレス、ID）などを書き込んだことがあるのは、8.9%、一方、他人の情報を書き込んだことがあるは 3.2%であった。ゲームやアプリへの課金経験は 27.1%であった。自分が知らない人や、知らないお店などからのメッセージやメールがきたことがあるのは 32.6%、迷惑メールやメッセージが送られてきた経験は 45.4%であった。

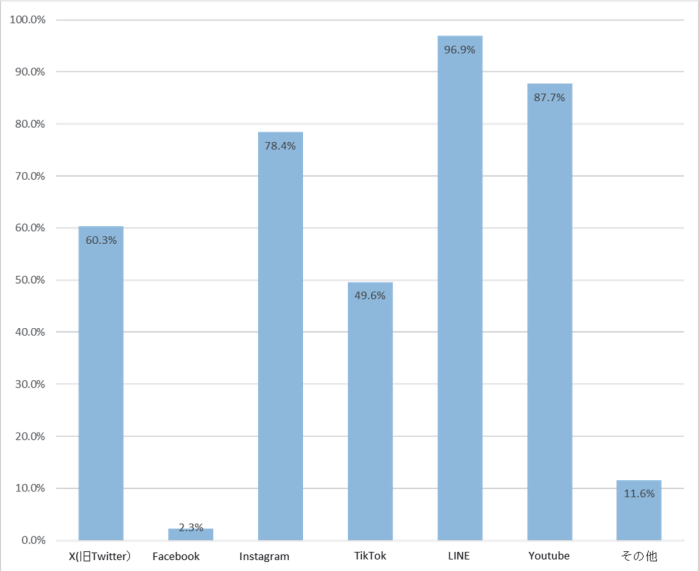

図3 普段利用しているコミュニティサイト

普段利用しているコミュニケーションサイト（SNS）は、LINE が 96.9%で最も多く、次いで Youtube が 87.7%、Instagrm が 78.4%、X（旧 Twitter）が 60.3%であった。インター

ネットで知り合った人とのメッセージのやり取り（SNS も含む）の経験は 33.1%であり、インターネットで知り合った人と直接会ったことがある経験は同性が 9.6%、異性が 4.3%であった。インターネットで知り合った人との人間関係で悩んだことがある経験は 4.9%であった。

インターネットの使い方について、家庭でルールを決めていないが 36.9%、困ったときはすぐに保護者に相談するが 33.9%、続いてゲームやアプリの利用方法や利用料金、課金の上限が 24.9%であった。

スマートフォンなどを通じて友だちとのコミュニケーションを面倒だと感じることがあるかについては、よくあるが 14.6%、少しあるが 37.1%、あまりないが 36.0%、全くないが 11.4%であった。インターネット利用機器が気になって家の手伝いや勉強など、やるべきことができなくなることがあるかについては、よくあるが 22.9%、少しあるが 39.7%、あまりないが 28.6%、全くないが 8.3%であった。

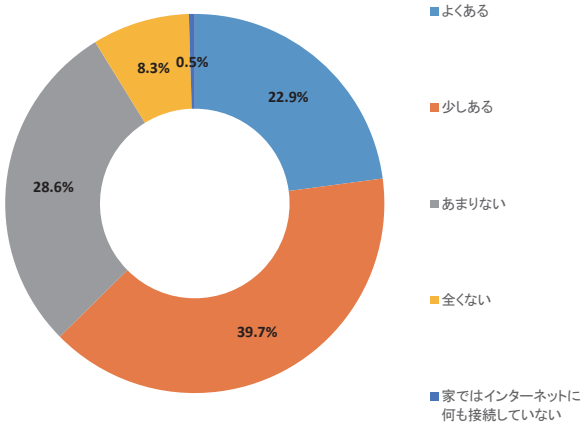

図4 情報機器が気になって家の手伝いや勉強などやるべきことができなくなることがあるか

（6）インターネットの危険性の認知および学習の機会

インターネットの危険性についての学習の機会は、学校（小・中・高）の講演会や配布資料が 79.1%、学校の授業が 72.0%で高く、続いてインターネットが 25.4%、保護者が 22.0%であった。学習の内容は、インターネット上のコミュニケーションに関する問題（他人への悪意ある書き込み、言葉による攻撃など）が 73.1%、プライバシー保護に関する問題が 63.4%、インターネットの過度の利用に関する問題が 59.4%であった。また、危険性について知りたいと考えているテーマは、セキュリティに関する問題（ウィルスや不正アクセス対策など）が 40.9%、プライバシー保護に関する問題（個人情報やパスワードの流出など）が 34.3%、フィルタリングの必要性や有効性が 28.3%であった。

（7）iPad の利用について

1 人 1 台端末として個人用 iPad を校内で所持している 1、2 年生のみが回答をした。授業での利用について良い点と感じているのは、調べたいものがすぐに検索できるが 92.5%、記録や保存がすぐにできるが 68.0%、家庭学習に利用できるが 59.5%、情報を共有しやすいが 47.0%、学習の効率が良くなったが 41.5%であった。一方、不便だと感じているのは、充電しなければならないが 71.3%、その他が 17.0%、使い方が分からないが 12.9%、情報漏洩が心配だが 9.9%、自分の持っている端末と操作が違うが 9.4%、周りのスピードについていけないが 8.8%であった。

4. 考察

インターネットの接続は 100%であり、本校の昨年度の調査および内閣府の調査と大きな差は見られなかった[2)]。また、インターネットに接続する機器もスマートフォンが 99.1%であり、内閣府の調査と同様[3)]にほとんどの生徒がスマートフォンを利用している。接続機器に関しては、昨年度に比べてタブレット端末の利用が 55.7%となり大きく増加した。家族とも共有を合わせると 67.9%がタブレット端末を利用しており、本年度の 1、2 年生の割合とほぼ同等である。また、インターネット接続テレビ、ゲーム機においても昨年度の調査と比べ増加傾向を示した[4)]。次に利用時間については、スマートフォンは、2 時間から 3 時間が 30.3%、3 時間から 4 時間も 24.6%であり、これだけで半数を超える。特に

3 時間から 4 時間の利用時間が昨年に比べ大きく増加しており、スマートフォンの利用の長時間化が見られる。パソコン、タブレット端末、インターネット接続テレビ、ゲーム機においては、1 時間未満が最も多いが、タブレット端末およびインターネット接続テレビにおいては、1 時間から 2 時間の利用が昨年度よりも増加している [5]。これらから、インターネットに接続する機器が増加および多様化する傾向にあり、また、利用時間についても増加傾向にあることが示唆された。一方で、内閣府の調査ではインターネットに接続している時間の総計は 5 時間以上が最も多いのに対し [6]、本校では 2 時間から 3 時間、3 時間から 4 時間にボリュームゾーンがあり、昨年度に比べると長時間化の傾向にあるが、内閣府の調査に比べると短い傾向であった。利用内容においては、本年度は 1、2 年生が iPad を個人端末として学校の授業や家庭学習、課題の提出等に利用しているため、特にタブレット端末の利用内容に大きな変化が見られた。昨年度は、タブレット端末で勉強すると回答した割合が 49.7%であったのに対し [7]、本年度は 72.8%であった。スマートフォンやパソコンでの割合は昨年度と大きな変化はないため、本年度の 1、2 年生が iPad を家庭での学習にも利用していることがうかがえる。内閣府の調査においても学校指定のタブレットやパソコンで勉強をすると回答している数は 7 割を超え [8]、本校も内閣府と同様の傾向にあった。

次に、本年度は 1、2 年生が個人用 iPad を利用しているため、昨年度と同様に利用についての設問に加え、本年度新たに記述式での質問を設けた。1、2 年生を対象とした個人用 iPad の授業の利用において、良い点だと感じているものについては、ほとんどの項目で昨年度より高い値となり、授業での活用をよりよく受け止めていると言える。特に、授業での効率や内容に関する設問および家庭学習に利用できるが大きく伸びている。昨年度と比較して、授業の内容が理解しやすくなったが 31.9%から 39.0%、学習の効率がよくなったが 32.8%から 41.5%、授業等で配信された情報が整理しやすいが 27.7%から 35.0%、記録や保存がすぐにできるが 58.9%から 68.0%、家庭学習に利用できるが 47.9%から 59.5%となり、昨年度に比べて授業での学びを家庭学習につなげていくツールとして個人用 iPad を効果的に利用していると考えられる。

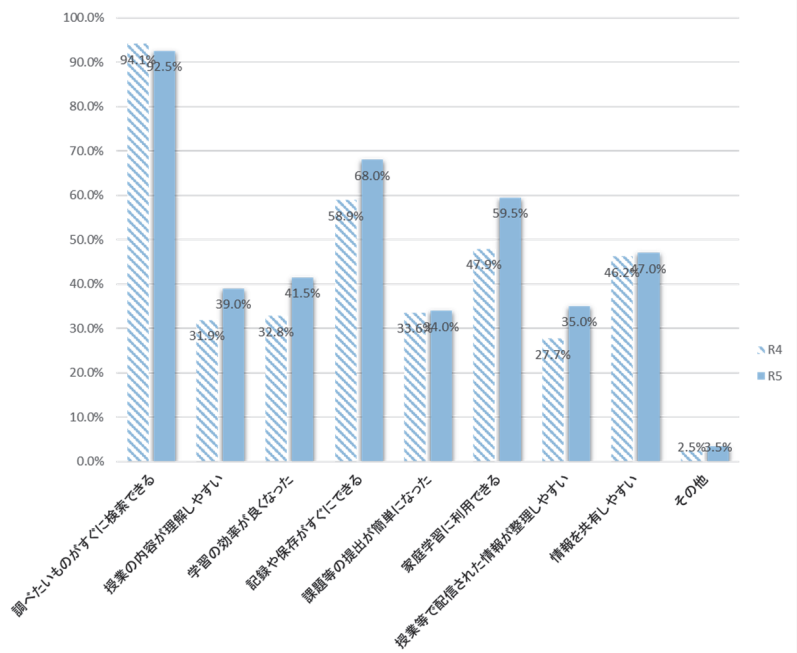

図5 iPadを授業で利用して良かったと感じたこと

一方で、不便だと感じていることに関しては、充電しなければならないが昨年度の約 5 割から 7 割以上となり [9]、多くの生徒が不便だと感じている。これは、個人用 iPad を利用しての授業や活動等が 2 年目となり、多くの教科で多様な使い方をするようになったため、使用頻度が高まったことが要因の一つではないかと考えられる。また、使い方が分からない、周りのスピードについていけない、自分の持っている端末と操作が違う、と回答している生徒が昨年と同様に一定数おり、格差を広げないような指導方法が必要である。GIGA スクール構想により、令和 4 年の段階で義務教育での 1 人 1 台端末の整備状況は 99.9%とされ [10]、ほとんどの生徒が高校入学時にはタブレット端末等での学習を経験している。しかし、市町村によって選択する端末が異なるため、本校に入学してくる生徒も、小、中学校時代には iPad

と異なる端末を利用している生徒もいること、また端末を家庭へ持ち帰りができない場合も多く[11]、操作そのものに慣れていない生徒もいるため、今後も初期段階では丁寧な指導が必要であろう。

また、GIGA スクール構想では、Society5.0 時代に生きる子供たちにとって、PC 端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムと位置付けられている[12]。そして、令和の日本型学校教育の構築に向けた ICT の活用に関する基本的な考え方では、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、ICT は必要不可欠であるとされ、これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要とされている[13]。さらに、高等学校の学習導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている[14]。今後の授業実践や家庭学習の場面では、個別最適な学びや協働的な学びを促すよう ICT 機器が授業のあらゆる場面で活用され、主体的で対話的で深い学びとなっていくことが理想である。本校では、昨年度入学生から、1 人 1 台端末として、学校指定の iPad を個人所有として活用し、本年度は現在の 1、2 年生全員が所有しているため、個人用 iPad が授業でどのように活用されるとよいか、さらに、家庭学習でどのように役立てているかを、自由記述で調査した。

図６　iPad がどのように授業に活用されると良いか

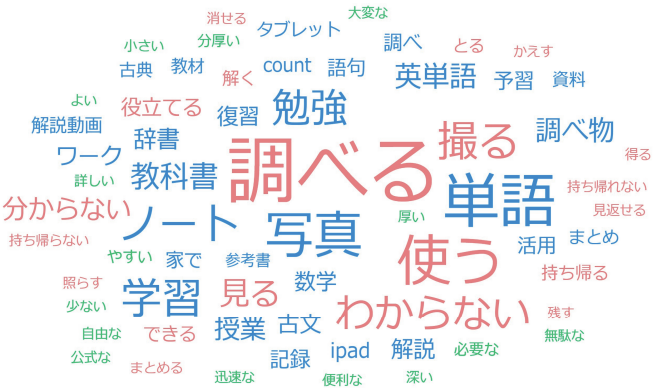

図７　iPad をどのように家庭学習に役立てているか

（ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析（ https://textmining.userlocal.jp/ ））

授業でどのように活用されるとよいかについては、全体の約 65%の生徒が回答し、その中で個人用 iPad の授業活用について記述が多かったものは、「教科書やノートの代わりとして利用」「授業でのより詳しい資料の提示・個々への配信」を含む回答であり、3 割を超える生徒がデジタル教科書を希望していた。また、現在「ノートとして活用をしている」と記述した生徒も同様に 3 割程度となった。さらに、

文部科学省による「教育の情報化を通じた教育改革」の中で、1人1台端末の授業での活用状況の参考資料[15]に該当するような記述をしているものに関する用語も抽出した。「自分で調べる」「教職員と生徒がやり取りする」「自分の考えをまとめ、発表・表現する」「生徒同士がやりとりする」に関する記述については、それぞれ2割程度の記述があり、これら以外では、「授業を録画、撮影」の希望を記述するものが1割程度あった。一方、家庭学習で個人用iPadをどのように役立てているかについては、全体の約64%の生徒が回答し、「分からない英単語や古語などを調べる」と「予習・復習、そのために解説動画を見る」に関する記述がそれぞれ4割を超えた。また、6割を超える生徒が、この2つを関連させて家庭学習をするという記述をしていた。さらに、「ノート」として活用している生徒が15%程度、教科書や資料集を写真に撮り持ち帰りの荷物を減らしたり、書き込みをしながら勉強すると答えた生徒も15%程度いた。これらの記述からも、端末での学習を授業と家庭学習の両方で連携させながら、効率よく学習に取り組みたいという姿勢がうかがえた。今後も1人1台端末の利点を生かすためには、いかに授業での学びと家庭学習をスムーズにつなげていくかが課題となると考えられる。1人1台端末とクラウドを活用し、家庭学習での学びと授業での学びとの連携を図ることで、生徒が学習内容を見通し、振り返り、他者との考えとの比較を通して、自分の考えを再構築することができ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりができた[16]という報告からも、個人用iPadを有効活用して授業改善を図っていくためには、生徒が希望する活用方法を授業で取り入れる機会を増やしながら授業実践をしていくことに加え、授業や家庭学習などあらゆる場面で、自分の考えや思考過程を可視化して他者と共有したり、そのやり取りを残していくことなどの実践頻度を高めていくことが必要になるだろう。そして、これらの実践や記録を積み重ねていくことが、主体的で対話的な深い学びへより近づいていくのではないかと考えられる。一方で、個別最適な活用となると、課題は多い。指導の個別化と学習の個別化からのアプローチも必要である上に、タブレット学習には学力層による受容度と活用度には差が生じるため、このことに留意した効果的な導入を図るべきである[17]という報告や、学習の履歴や思考を整理する目的で用いられてきたノートや授業プリントへの記述が、思考そのものを活性化させる目的である1人1台端末の利用に置き換わったことで学習履歴の蓄積に課題が残る[18]という指摘がなされていることからも、学習過程で個別最適な活用については、今後もあらゆる方法で試行錯誤をしていかなければならないだろう。そして、個別最適な学びや協働的な学びの充実は、学校規模や教員の質など、状況による依存度が高い[19]ことなどは課題としてあげられるが、今後も1人1台端末を活用する実践を積み重ね、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善へとつなげていくことが必要である。

5. まとめ

本年度も昨年度に引き続き「青少年のインターネット利用環境実態調査」を基に本校のインターネットの利用環境や利用状況を調査し、昨年度の結果や内閣府の調査との比較をした。本年度の本校生徒の傾向としては、インターネットやスマートフォンの利用時間が長時間化の傾向にあったが、昨年度よりもタブレット端末やその他の機器で学習をする生徒の割合は増加傾向にあった。一方で、本年度は1、2年生を対象に、個人用iPadの利用についての設問を設け、また、授業での利用や家庭学習での活用の仕方などを探った。多くの生徒が個人用iPadを積極的に学習活動に利用しており、また工夫しながら学習を進めていることがうかがえた。来年度は全校生徒が個人端末としてiPadを利用する。全校生徒が同じ端末を常時利用することで、様々な発見と同時に課題も出る可能性があるが、1人1台端末が整備された本校の新たな学習活動の在り方を模索していきたい。

また、文部科学省の「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」によると、社会情勢

の変化や、令和の日本型教育の姿、その構築に向けた改革の方向性という新しい学びを実現するための学校施設の在り方が示されている[20]。新しい時代を担う子供たちに求められている教育を充実したものにするために、学びの観点からだけではなく、様々な観点から学校が変わっていくことを求められているということを認識し、諸活動に取り組んでいかなければならないと考えている。

参考文献

1) 内閣府　令和４年度　青少年のインターネット利用環境実態調査　青少年調査票　1－10
2) 内閣府　令和４年度　青少年のインターネット利用環境実態調査　青少年調査の結果　インターネットの利用状況　2023
3) 内閣府　令和４年度　青少年のインターネット利用環境実態調査　青少年調査の結果　インターネットの利用率　2023
4) 堀田景子　インターネット利用環境実態調査 2022　愛知教育大学附属高等学校研究紀要　第 50 号　78 - 79　2023
5) 堀田景子　インターネット利用環境実態調査 2022　愛知教育大学附属高等学校研究紀要　第 50 号　79　2023
6) 内閣府　令和４年度　青少年のインターネット利用環境実態調査　青少年調査の結果　インターネットの利用時間　「利用機器の合計」　2023
7) 堀田景子　インターネット利用環境実態調査 2022　愛知教育大学附属高等学校研究紀要　第 50 号　78　2023
8) 内閣府　令和４年度　青少年のインターネット利用環境実態調査　青少年調査の結果　インターネットの利用内容　「自宅用のパソコンやタブレット等、学校から配布・指定されたパソコンやタブレット等」　2023
9) 堀田景子　インターネット利用環境実態調査 2022　愛知教育大学附属高等学校研究紀要　第 50 号　81　2022
10) 文部科学省　GIGA スクール構想を含む教育の情報化を通じた教育改革　資料１
11) 文部科学省　義務教育段階における１人１台端末の整備状況（令和４年度末時点）　2023
12) 文部科学省　GIGA スクール構想について　2023
13) 文部科学省　中央教育審議会　「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）【概要】
14) 文部科学省　高等学校学習指導要領解説　【総則編】
15) 文部科学省　GIGA スクール構想を含む教育の情報化を通じた教育改革　資料１
16) 奥坂充稀　１人１台端末とクラウドを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた高等学校の授業づくり - 家庭学習での学びと授業での学びとの連携を通して -　滋賀県総合教育センター　令和３年度（2021 年度）情報教育に関する研究　15　2021
17) 和田和久　１人１台タブレットの導入による中学生の活用意識・行動について（概要）- 学力層の違いによる受容度に着目して -　政策研究大学院大学　35
18) 平澤傑　１人１台端末を活用した理科授業の開発と評価 - 探求過程の蓄積と「主体的に学習に取り組む態度」の育成及び評価 -　教育実践研究論文集　第８巻　52　2021
19) 金子拓郎　「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図るための ICT 機器活用ができる教員の育成と研修の実践的研究　千葉大学授業実践開発研究　第 16 巻　2023
20) 文部科学省　「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」 最終報告【概要】